

スペインのお勧め
パール・レストラン
 bares y restaurantes recomendables

Vol. 9
MECHELA (メチェラ)
 / Sevilla

セビージャの中心部近くにある隠れ家的レストラン“メチェラ”。セビージャで現在最も人気のあるレストランの1つと言われ毎日混み合っていると噂だ。若手シェフ・アルバロ氏自身のABUELA(アブエラ/祖母)から引き継がれたメニュー、伝統に国際的なテイストが加えられた料理が、ちょっと大きめのタパスサイズにてサーブされるのが嬉しい。固定メニューとは別に、アンダルシアの季節食材を大いに利用した日替わりメニューも複数あり大いに楽しめる。もちろん大皿の場合もあるので確認してから注文しよう。店内はお洒落な女性客が多く目に映り、気軽に足を運べるカジュアルレストランである。給仕女性達の素早く丁寧なサービスも心地よく、和やかな雰囲気にも包まれ非常に心地よい空間だ。ワインはほぼ全種グラスで頼むことができるので料理ごとに変えて楽しむのもいいだろう。味もその雰囲気もセビージャの最先端を感じたい方にはぴったり!そして地元にとっぷりと浸かりたい人向けのレストラン。手作りデザートも秀逸なので小腹の用意も忘れずに!デザートとコーヒーまで満喫して予算は1人20から30ユーロ程度。早めに行って席の確保をするのは必須であろう。



写真上、PARGO A LA ROTEÑA (ロタ風地中海鯛)は、季節限定メニュー。19ユーロ/左下、AJOBLANCO CON GAMBÓN Y HUEVAS DE ARENQUE (大エビと数の子のアホブランコ(ニンニクとアーモンドのスープ)は、そのまったり感と揚げエビのうま味がたまらない。4,20ユーロ/右下、TARTA DE CHOCOLATE (チョコレートケーキ)は大人気デザート。4,5ユーロ

información

MECHELA (メチェラ)

住所: Bailén, 34, SEVILLA 電話: +34 955 28 94 93
 HP: <http://www.mechelarestaurante.es/>

※上記情報は、2014年11月時点のもので変更する可能性があります。



田中富子 たなかとみこ / Tomiko Tanaka

日本にてフォワード、米通信会社勤務後、2001年よりセビージャ在住。2006年個人自営業ビザ獲得。2008年アンダルシア州立ハエン大学にてバジーン・オリーブオイル・テイスターにおける大学のエキスパートコースを終了し、オリーブオイル・エキスパートに。現在は、オリーブオイルコース、食品輸出入仲介業と執筆業を主に、通訳、翻訳等スペインと日本を橋渡し中。誠実、情熱、感動がモットーの熱い人間です。HP: www.creapasion.com/ / <http://spain.fc2web.com/>



マドリッド在住15年
 旬のスペイン情報をお届けします

スペイン小橋 ①



2年後のマドリッドにさらに期待

長年日本人観光客の間で、治安が悪いから自由行動も落ち着いてできないと言われ続けてきたマドリッドは、この15年の間に大きく変容してきました。街角や地下鉄構内の警備が増え、主だった道や観光箇所には日本語での案内看板が立ち、日本語通訳者まで揃える警察署まで準備されるようになって、スペインを訪れる観光客の1%にも満たない日本人観光客がマドリッドから大切にされていることが目にとってわかるようになりました。観光案内所には日本語の案内が充実しています。数年前まではちょっと危なげな気配がしたフェンカル通りの一部やソル広場から伸びるアレナル通りは歩行者天国となり落ちついてショッピングを楽しめるようになりました。

そんな訪問者に優しいマドリッドがここ数年ちょっと元気ないように感じます。

私がスペインという国に一番最初に対面したのは、ベドロ・アルモドバル監督作品「バチ当たり修道院の最期(1983年)」という映画を観た時でした。スペインはおろか日本以外の国に関する知識が皆無だった10代の私にはやや刺激が強すぎる内容だったのに加えて、文化・社会的背景も知らず、とにかく作品の意味がまったくわからない。そ

れでもまるで頭を強くぶつけた後のように見終わった後から強い痛みと興奮がじんじんとやってくるような、そんな感覚が長い間残ったのを覚えています。今のマドリッドには80年代にアルモドバルが強烈な個性で世界に放ったような存在感、説明できない興奮、迫力が不足しているように思えるのです。

私の中のスペインとは、洗練しきれないけれどカラフルで独特の毒気があり、近づく人を皆虜にしてしまうような色気を纏った国。そんなイメージでしたがEU統一後、不要なまでに強いられた横並び政策のせいか、隣国ヨーロッパ諸国風のデザインが流入し、世間ではミニマル리즘のシンプルさがもてはやされ、お上品になりすぎてしまったのです。そんな不満を抱いていたところ、9月12日、雇用・観光文化省アナ・イサベル・モリーニョ大臣がペルーにて開催された世界観光サミット開催中に日本の大手旅行会社の会長と会話、日本の旅行会社の協力の下、2016年を目処に日本人観光客のマドリッド滞在日数を1日から7日までに引き伸ばすためのアラカルトプログラムを仕掛けていくというニュースを目にしました。女優菊池凛子さんを日本語ナレーションに起用しているバルセロナの最新版プロモーションに対抗するのに、マドリッドはどんな仕掛けで驚かせてくれるのかしらと一人想像してわくわくしています。また2015年4月

にはマドリッドにて世界観光サミットが開催されます。それを皮切りにマドリッドが世界に注目されれば、ちりちり燻っていたマドリッド復活戦にも火が点る、そんな予感がしてこれからのマドリッドから目が離せなくなりそうです。



マジョール広場。いつも大道芸人やミュージシャンがいて、観光客や地元の人で賑わう広場を一層魅力的な空間にしています。



土屋寛子 つちやひろこ / Hiroko Tsuchiya
 マドリッドに15年在住。仕事のビザで渡西、日系企業に勤務。スペイン人の夫と4歳の娘と暮らしている。